

# 災害支援をこども環境学から考える

大西宏治

公益社団法人こども環境学会・副会長  
富山大学人文学部 教授  
専門：人文地理学、まちづくり、防災教育

1

## 『こども環境学』とは

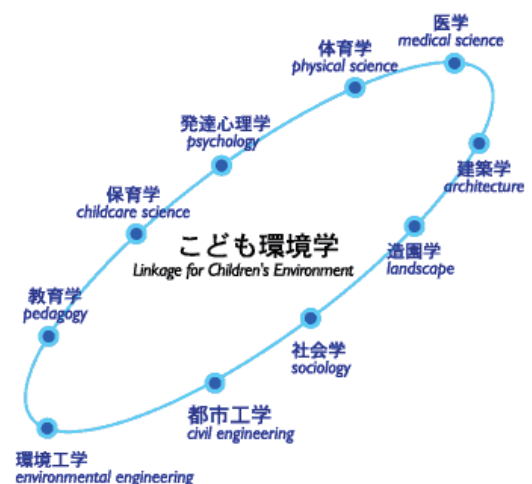
2

## 『こども環境学』とは

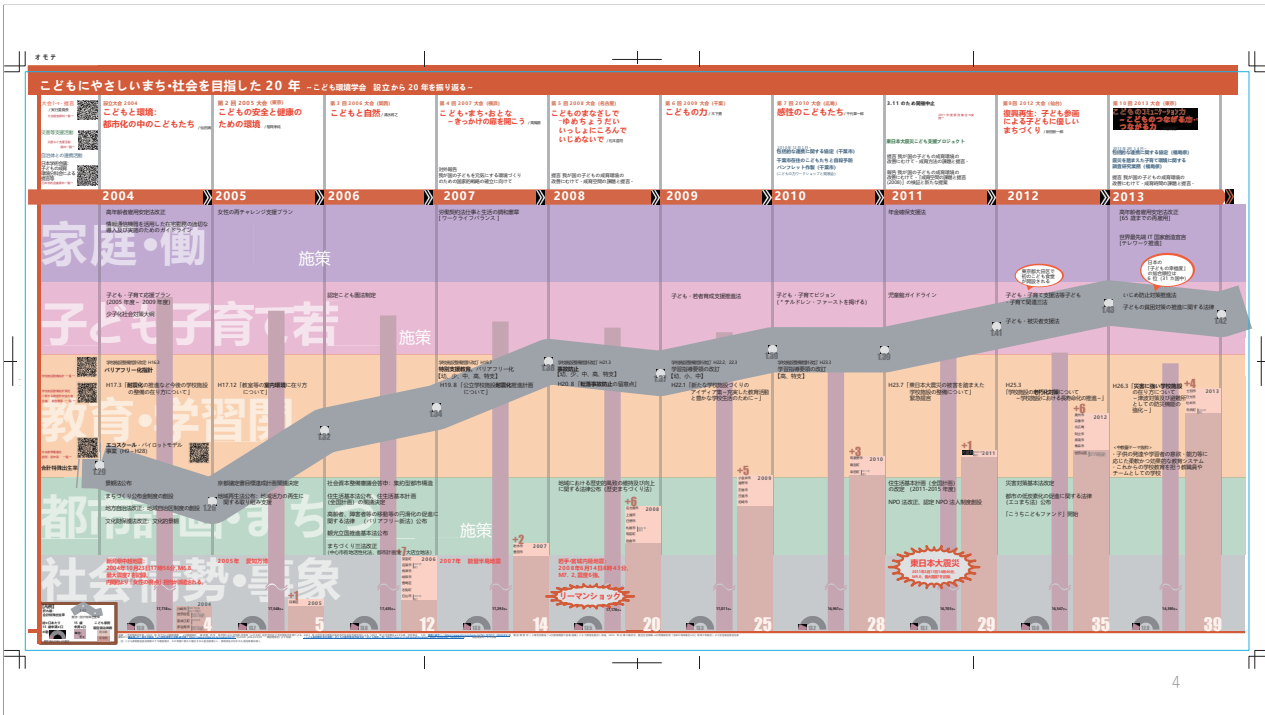
子どもを取り巻く分野横断的な総合科学

未来を担う子ども達が心身ともに元気に成育できる環境を保障するため、

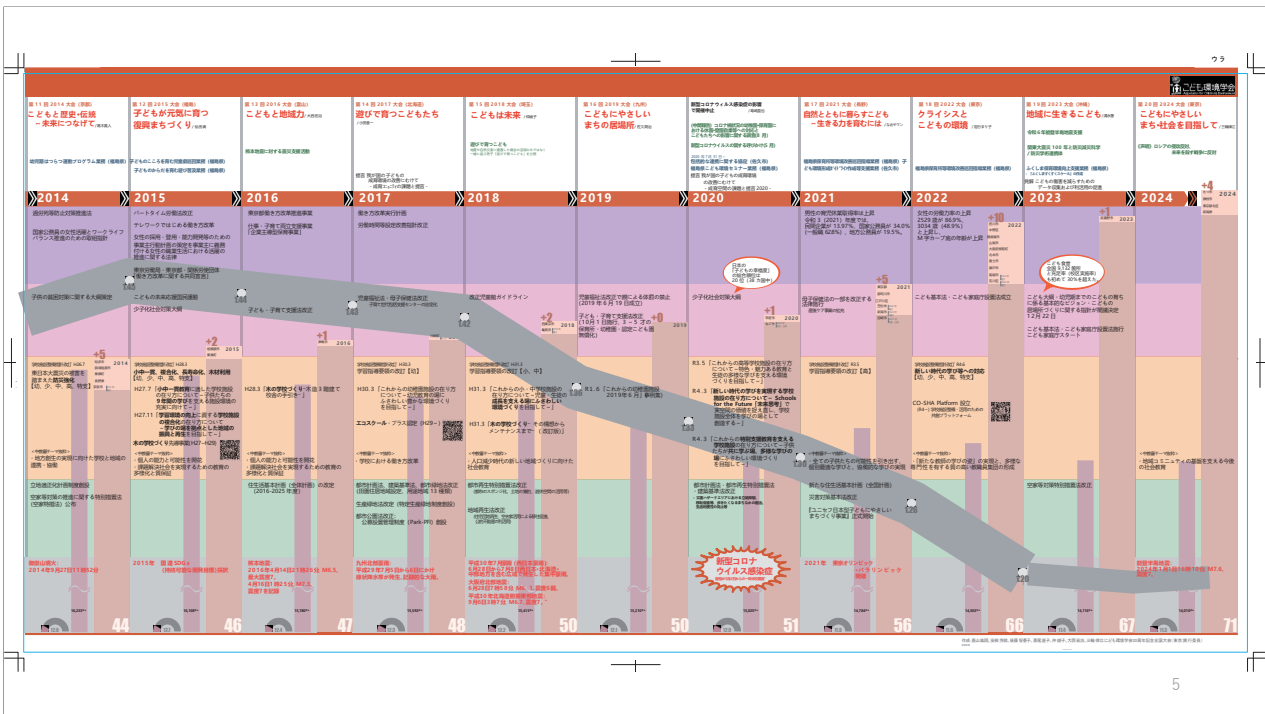
- ・学問領域を超えて、
  - ・研究者や実践者が集い、
  - ・子どもを取り巻く環境=こども環境について  
共に研究・提言し、実践していく
- ことで、よりよい成育環境を実現していく必要  
⇒『こども環境学会』設立趣旨



3



4



5

## こども環境学としての 自然災害への備えと対応に向けた視点

- 子どもの育ちを軸に、胎児期から18才までトータルに考えた取り組み となっているか (年齢・領域横断)
- 自然災害への備えと対応に欠かせない平時からの防災教育・災害伝承 その時、子どもがそれらの主体となっているか
- 災害を特別視しない  
身近な生活圏の理解と  
その日常生活のなかに防災教育・災害伝承を
- 事前復興の中にも子どもの声を聴く姿勢を

6

# 福島県との包括連携協定 —緊急時から中長期にわたる支援—

資料 防災学術連携体 第26回Web研究会／子ども環境学会（2024年10月13日）  
 「福島県との包括連携協定の歩み—緊急時から中長期にわたる支援—」  
 帝京大学 谷本都栄



## タイミングで変わる支援内容

### 1. 緊急時の支援

- ・「東日本大震災にかかる行動計画」策定
- ・被災地（岩手県・宮城県・福島県）の実態調査

### 2. 中期的支援

- ・「子どもが元気に育つ復興まちづくりガイドライン」作成
- ・福島県との包括連携協定締結

### 3. 長期的支援

- ・「ふくしまっこ遊び力育成プログラム」作成
- ・子どものからだ・こころを育む遊び力普及事業等

### 4. 復興支援から継続的支援へ

- ・ふくしま保育環境向上支援事業
- ・ふくしま魅力あふれる保育環境づくり支援事業

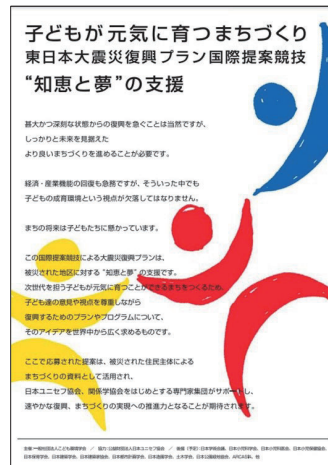


## 1. 緊急時の支援（発災から約2～6ヵ月）

学会誌・HPでの情報発信  
 2011年9月1日号  
 「特集 東日本大震災子ども支援」



学会主催国際コンペ  
 子どもが元気に育つまちづくり  
 “知恵と夢”の支援 2011年5月～8月



## 2・中期的支援（発災から1年）

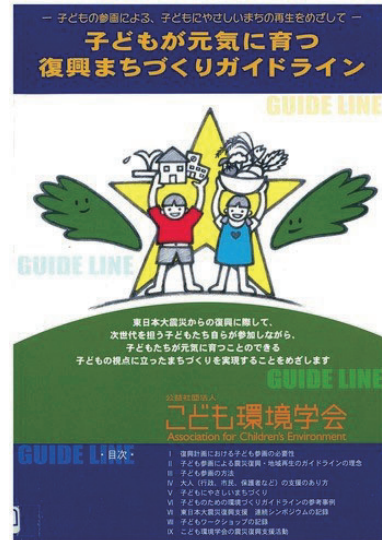
### 「こどもが元気に育つ復興まちづくりガイドライン」

独立行政法人福祉医療機構  
社会福祉振興助成事業 2012年3月

被災地における連続シンポジウム、  
こども参画ワークショップを開催

被災地、被災者の声も反映させた  
ガイドライン策定

こども環境学会仙台大会2012  
復興再生こどもに優しいまちづくり  
における情報発信



## 2. 中期的支援（発災から2年1ヵ月）

2013年 福島県と公益社団法人こども環境学会との包括的な連携に関する協定書 (協定の主な内容)

### 1. 知的資源、物的資源の活用

専門的見地からの助言及び支援、ネットワークの強化、学会からの  
研究成果の提供、県からの統計資料などの提供、学会が主催する各種  
行事への福島県の参画

### 2. 人材の育成に関すること

講演会・研修会の内容充実、講師の派遣、民間活動者の育成

### 3. 共同で実施する事業の企画、調整及び推進に関すること

調査研究事業の企画、遊びサポート事業の講演会企画

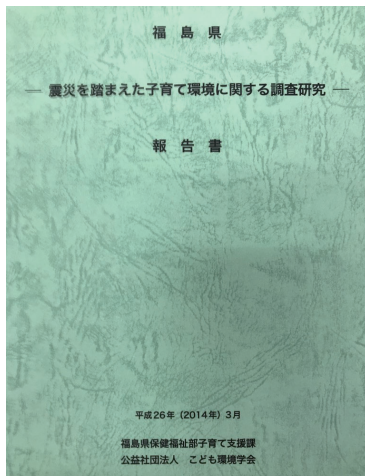
### 4. 情報発信の促進に関すること

学会による全国・世界への情報発信、県による子育て支援関係者への  
学会の活動紹介

## 2. 中期的支援（発災から3年）

### 震災をふまえた子育て環境に関する調査研究

福島県保健福祉部子育て支援課より受託 2014年3月



#### ①県民アンケート調査

(子どもがいない人、就学前児童の保護者、小学校児童の保護者、計5,400人)

#### ②子どもへのアンケート調査

(小学校5年生、中学校2年生、高校2年生、計3,260人)

#### ③支援団体等への聞き取り調査

(県子育て・子育て環境づくり推進会議委員9名、保育所・幼稚園関係者、復興支援団体、遊び場運営者など19団体)

#### ④子ども参画によるアクションリサーチ

(子どもの声を施策に反映するためのモデルとして中高生の参画によるWSを実施)

⇒今後の包括的な子ども・子育て施策  
の方向性の提案

### 3. 長期的支援（発災から4年）

#### 子どもの遊び環境サポート事業

福島県保健福祉部子育て支援課より受託 2015年3月



#### 「ふくしまっこ 遊びカ育成プログラム」作成

- ①福島県の子どもの現状  
体力・運動能力の低下
- ②遊びの原空間  
多様な環境が多様な遊びを誘発する
- ③遊びの年齢段階  
模倣遊びから運動遊びへ
- ④運動遊びから群れ遊びへ  
36の基本の動き
- ⑤遊び環境づくりガイドライン  
多様な遊び環境づくりに向けて

### 4. 復興支援から継続的支援へ（発災から13年）

#### プログラム普及から「保育の質」向上のための支援へ

#### ふくしま魅力あふれる保育環境づくり支援事業

園庭改善巡回指導および改善後の効果検証の継続  
スケールを活用した保育士・幼稚園教諭を対象とした  
「遊び」のワークショップ開催（予定）  
福島県こども未来局より受託 2024年度～

#### 成果報告「こども環境学会×福島県」

<https://kodomo-fukushima.org/>



## 能登半島地震を踏まえて考える 子どもの意見表明

セーブ・ザ・チルドレンのアンケート調査を通じて考える

# 災害時の子どもの意見表明に関する国際的枠組み

- 国連子どもの権利条約（1989）
- 国連子どもの権利委員会
  - 一般的意見12号：  
意見を聴かれる子どもの権利（2009）CRC/C/GC/12
- 国連子どもの権利委員会
  - 総括所見：日本第4－5回（2019）CRC/C/JPN/CO/4-5  
パラ37気候変動が子どもの権利に及ぼす影響

意見は、opinionではなくview

16

子



第2条  
差別の禁止

第3条  
子どもの最善の利益

第6条  
生命への権利、生存発達の確保

第12条  
子どもの意見表明権

こども基本法にも

<https://seikyokuiku-illust.com/about/>

17

## I. アンケート目的および実施状況

### 1. アンケート目的

- 2024年能登半島地震や復興について、子どもたちが思いや意見を述べられる機会を設けること
- 子どもたちの地震や復興についての思いや意見を把握すること

### アンケート対象および実施状況

〈主な対象地域〉石川県七尾市、穴水町、能登町、珠洲市、輪島市（セーブ・ザ・チルドレン活動地域）

〈対象学年・年齢〉小学4年生から高校生世代

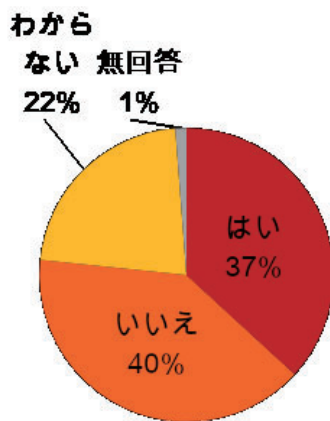
〈回収期間〉2024年7月1日から7月31日まで

〈回収方法〉小中高校、特別支援学校、放課後児童クラブ、地域支援関係者を通じて、アンケート用紙の配布・回収、またはオンラインフォームの案内チラシの配布を行った。ほか、セーブ・ザ・チルドレンのウェブサイトやSNS（Facebook、X、Instagram）で回答の募集を行った。

〈有効回答数〉2,053件（アンケート用紙；1,764件、オンラインフォーム：289件）

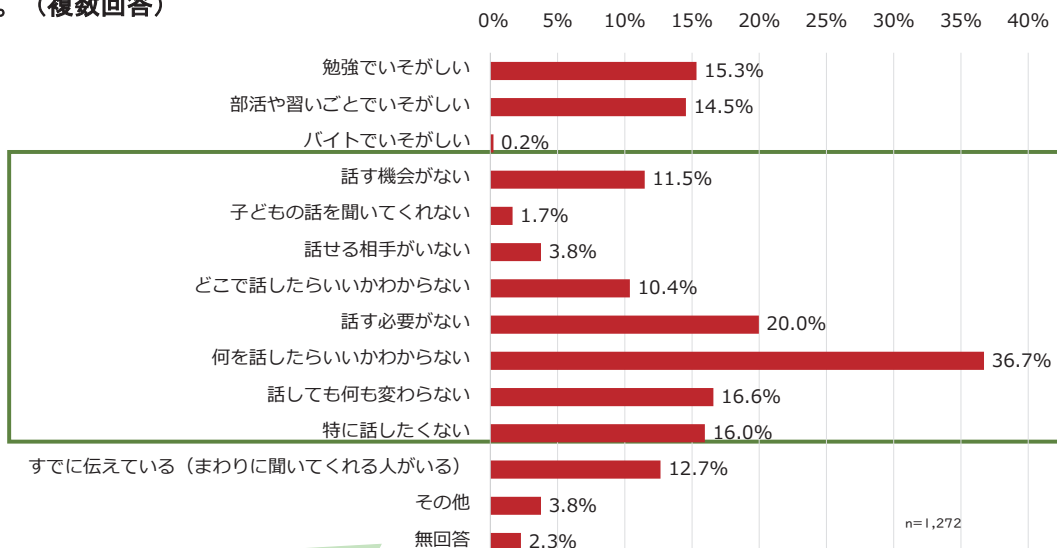
※詳細は、2024年8月29日に公開したアンケート調査結果速報版を参照  
[https://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc\\_activity.php?d=4535](https://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=4535)

2. あなたは「被災地の子供たちに何かを伝えたいこと」ありますか。(単



「いいえ」「わからない」だからと言って、子どもたちに伝えたいことがない、何もしたくないわけではない。

(2) 「いいえ」「わからない」と答えた人にお聞きします。なぜそう思ったのか教えてください。(複数回答)



潜在的には被災に関連して何かを伝えたいと思っても、その環境が整っていないため伝えられない、言うことをあきらめた子どもたちが一定数いると推察

## 学会としてのこれからの取り組み

## 学会としてのこれからの取り組み

- **福島県に対しての支援から得られるもの**
  - これまでの伴走が一定の経験を蓄積してきた
  - 同様の形式で他地域でも支援できるとは限らない
  - さまざまな団体との連携が今後の鍵
- **災害時、災害後の子どもの意見表明ができる社会への取り組み**
  - こどもの声の意味を学術的に社会へ説明する役割がある
  - こどもの側が意見表明をあきらめない環境づくり
  - こどもとともに防災・復興計画に取り組む仕組みづくり